

新入生にPC所持必須化

函館高専

全国高専でも先駆的な情報通信技術（ICT）教育の推進事例として、函館発のモデル化を目指す考えだ。（今井正一）

教員と学生共同で授業展開



個人パソコンの導入により「200人一斉のアクティブラーニングや遠隔授業も可能になる」と話す小林副校長

同校には授業用のコンピュータ室やタブレット端末iPad約200台があり、校内ではインターネット接続環境を完備。情報系の4、5年生を除けば、PCの所持率はそれほど高くはないという。導入に向け、昨年春から、教員の研修など準備を進めてきた。

導入後は、教員と学生が双方向でファイルを共有し、共同で課題に取り組むことが容易になる。教員の板書を学生がノートに書き写す代わりに、画面に表示された資料に学生がメモを書き込むことも可能。テストでは回答状況が同時に集計されるため、教員が学生の理解度を把握しやすい利点がある。授業の重要なポイントを記録して配布することで、休んだ学生や復習にも活用できる。

入学直後の授業から導入する方針で、希望者には4万5000円程度で購入できる端末を手配。同時にセキユリティーやSNS活用シール教育にも力を入れる。小林淳哉副校長（物質環境工学科教授）は「学生はさまざまな学習コンテンツを活用し、より創造的な学びができる。将来、技術者や研究者となるための訓練にもなる」と話す。一方で「教える側も変わらなければならない。1から10まですべてを教えるのではなく、素材を用意し、学生をサポートする役目が必要になる」としている。

小林淳哉副校長（物質環境工学科教授）は「学生はさまざまな学習コンテンツを活用し、より創造的な学びができる。将来、技術者や研究者となるための訓練にもなる」と話す。一方で「教える側も変わらなければならない。1から10まで